

## 変化する国語辞典とその活用

Changing Japanese dictionaries and how to use them

国語科 戸谷 順子

### 要 旨

本稿は中学校国語における国語辞典の積極的活用を試みた単元「語感を磨こう～国語辞典へのアプローチ～」の実践を通して、国語学習に欠くことのできない国語辞典に見られる最近の変化について考察するものである。

電子辞書やタブレット端末の普及により、多くの人々が「引く手間」と「辞書の重さ」から解放され、より気軽にことばを調べることができるようになった。しかし気軽に引くことができる反面、ことばとの出会いによって起こる感動は薄いものになりつつあるように感じる。そこで、中学生が紙の国語辞典に触れる機会を多く設け、多くのことばとの出会いを実感できる授業を試みた。本稿はその授業実践について述べたものである。

キーワード：国語辞典 編集方針 用例集め 語釈 図書室との連携

### I はじめに

ことばは日々生まれ、変化する。それは今に始まったことではない。しかし、様々なメディアやコミュニケーションツールの発達・広がりにより、今まで特定の分野・人しか使わなかったような専門的なことば（例えばアプリケーションやダウンロードなど）を中学生も日常的に使うようになった。彼らは大人よりも新しいことばに敏感であり、柔軟に受け入れることができる。彼らが用いることばは正しくない、乱れたものだと思われることが多いが、それを「日本語の乱れ」と考えるのではなく、「新しいことばの担い手」として捉えるのがいいように思う。

次々と生まれていく新語や流行語、若者ことばに対して、生徒たちはこれらを国語辞典に載せるべきだと考えているのではないか。自分たちが日常目にし、耳にし、使っていることばを載せた国語辞典こそ彼らにとって「使いやすい」「便利な」国語辞典だと感じているのではないだろうか。

このことを検証すべく、ことばに対して敏感で柔軟な中学生というこの時期、国語辞典についてより深く知り、その編集・改訂作業を擬似的に体験することで国語辞典について深く考える場を設けた。生徒たちが「ことばって面白いな」「国語辞典を使うのって楽しいな」「ことばについてもっと知りたいな」と感じる機会になればと考えている。

### II 国語辞典の変化

毎日のように新しいことばが生まれ、いつしか使われなくなったことばは消えていく。刻々と変化

することばは、まるで生き物のようである。そういったことばを集め、長い年月をかけて「国語辞典」という一冊の書籍にまとめるのは至難の業だ。辞書を編纂・編集しているうちにも次々に新しいことばが生まれ、消えていく。辞書に採録することばの選定は困難を窮めるのだ。

一般的な国語辞典はその時代を代表する流行語だからといってすぐには飛びつかない。『広辞苑』の編集者である平木靖成氏によれば、「ナウい」は1980年頃の流行語であったが、このことばが『広辞苑』に載ったのは2008年の改訂版であったという(註1)。一つのことばが辞書に採録されるのに30年弱かかったことになる。この例から、辞書編集者はかなり慎重にそのことばの「載せる・載せない」を検討していることが分かる。つまり、一時流行したことばを国語辞典に載せるか載せないかは「日本語として定着したかどうか」の判断が必要で、それには数十年かかることもあるというのだ。平木氏は「辞書づくりは世間の後追いをするぐらいがちょうどいい」と述べる。従来の国語辞典も、『広辞苑』と同じような方向(編集方針)で新語・流行語の採録には慎重な姿勢を取ってきたと言える。

ところがここ数年、国語辞典の改訂・編集方針に変化が見え始めた。ある二つの国語辞典が新語・流行語、俗語や若者ことばの採録に柔軟で積極的な姿勢を見せているのだ。これは「日本語として定着した」と十分に言える項目を採録してきた従来の国語辞典の世界では極めて異例のことであり、革新的なことである。

その二つの国語辞典とは『明鏡国語辞典』(本稿では『明鏡』と記し、特に版を示していない場合、最新版の第2版を指す。註2)と『三省堂国語辞典』(通称『三国(さんこく)』、本稿では以下『三国』と記し、特に版を示していない場合、最新版の第7版を指す。註3)である。『明鏡』は『問題な日本語』シリーズ(註4)や『KY式日本語』(註5)の著者である北原保雄氏が2002年に編纂した、日本で最も最近生まれた国語辞典である。『三国』は1960年初版発行、故見坊豪紀氏や故金田一京助氏など国語学の重鎮が編纂に携わった歴史ある国語辞典である。

従来の国語辞典の編集方針は北原氏が述べているように(註6)、

『明鏡』のような小型の辞書だと、現在よく使われていて需要度の高い言葉が優先させる。特別な狭い世界でしか使われないものは不採択となる。古くなりあまり使われなくなった言葉も外される。その逆に新しすぎて一般化していない言葉も採用されない。(中略)つまり、広く普及して一般化し、日本語としての、いわば「市民権」を得て初めて、みんなの共有物、普通の言葉と呼べるものになるのだ。普通の国語辞書には、広く普及し一般化している言葉載せるのが原則である。

と考えられてきた。また、『三国』第3版の序文で見坊氏も以下のように述べている。(註7)

辞書は“かがみ”である——これは、著者の変わらぬ信条であります。  
辞書は、ことばを写す“鏡”であります。同時に、辞書はことばを正す“鑑”であります。

国語辞典とは、ことばの規範を示すものであるということだ。

ところが、この2つの辞書は独自の編集方針を打ち出し、俗語や若者ことばを採録し始めた。以下、その例をいくつか示す。

- 『明鏡』
- ・「ゆる」の用例として「ゆるキャラ(=見るものを脱力させるキャラクター)」をいち早く載せる。
  - ・「コストパフォーマンス」、「婚活」、「どん引き」(「多くドン引きと書く」と注記あり)「むずい」(「むずかしいを短縮した造語。ムズいとも。」とある)なども載せる。
  - ・付録「明鏡 問題なことば索引」が別冊でついている。
- 『三国』
- ・若者ことばであり、インターネット上で使われ、広まった「リア充」や「W(ダブルユー。(あざ)笑うことをあらわす文字の意)」などを載せる。

- ・インターネットなどの掲示板で批判的な書き込みが集中する意の「炎上」も第6版から載せる。
- ・東日本大震災後よく聞くようになった原発関連のことば「内部被曝」「線量計」などを新たに載せ、採録済みの「がれき」の語釈に手を加える（註8）。

これらは確かに目や耳で触れることの増えたことばではあるが、世の中に十分定着し、市民権を得、一般化したことばと言えるのか疑問が残る。

北原氏は、「辞書は規範を示すものだ。あまり先走ってもいけないし、後れをとっては負けになる。」と述べ、また『明鏡』の編者のことばの中でも「辞典は、まず第一に、言葉の意味や使い方の規範を正しく解説したものでなければならない」としている。その一方で「近年は特に新語や俗語が急増している。また、既存の言葉がまったく別の新しい意味で使われたりしている。したがって辞典は、それらが本来の規範的な意味や用法でないということも、知ることができるものである方がよい。（中略）新語、流行語の中には定着するものもある。そういう言葉を厳選の上、採録したのが第二版の大きな特色の一つである。」とも述べている。その方針に沿って「ゆるキャラ」「どん引き」などを載せたのだ。

また、『三国』では編集委員の一人である飯間浩明氏が『辞書を編む』（註9）の中で『三国』の編集方針に触れ、他の国語辞典では立項していない「甘熟」ということばを例にしながら「たしかに、新聞や文学作品のことばには少ないが、街の中には『甘熟』は厳然としてある。これもまぎれもなく日本語だ。もとは個々の店の造語かもしれないが、一過性のものではなく、それなりに広がりを見せ、定着している。辞書は、『今そこにある日本語』を載せるべきである」と述べ、この『三国』の編集方針を「規範主義」に対して「実例主義」と呼び、「甘熟」を第7版で新規項目として載せている。

この二つの国語辞典は世の中の流れに合わせ、他社の国語辞典との差別化を図り、よりその辞書の独自性を示すねらいがあるのだろう。これらは、ことばに対して保守的とも言える国語辞典のあり方を大きく変えた。特に『三国』は第7版刊行前に『辞書を編む』が出版されたり、「新語募集キャンペーン」を実施するなどの話題性もあり、今後も注目を集める国語辞典となろう。

### Ⅲ 授業実践

生徒が国語辞典にたくさん触れ、様々なことばを話題にできるよう、毎回の授業で国語辞典を引く機会を組み込んで授業を展開している。自分の国語辞典に少しずつ慣れ、その特性をつかみ、自分の周りに溢れることばにアンテナを張り、辞書編集者の疑似体験することでことばや国語辞典に関心を持ってもらおうと試みたのが以下の授業実践である。生徒全員が編集委員となって架空の国語辞典『お茶中国語辞典』改訂版を出版するため、編集方針を立て、最終的には語釈や例文を完成させる单元である。

#### 1. 単元のねらい

語彙を増やし、豊かな言語感覚を養うために国語辞典の積極的な活用を意識して授業展開を行っている。生徒は素直に辞書を引いているが、自分の辞書に対しての関心はそれほど高くない。辞書に書かれた内容は「当たり前なもの」で、そこに書かれた内容に特に驚きや感動はない様子だ。確かに、辞書は使うたびに発見があるような、おおげさなものではない。しかし、その辞書編纂（編集）に携わる人間の多くが生涯をかけて心血を注ぎ、出版にまで漕ぎつけるのが辞書というものなのである。そこで、単元のねらいを以下のように設定した。

センター・弾丸～・チキン・～的・鉄板・殿堂入り・～撮り・ネオン・ハマる ブラック(企業)・メガ・盛る
【カタカナ語を含む】アプリ・アラ～・アベノミクス・イクメン・ガールズトーク・ガラケー クールジャパン・ゲリラ・コーデ・コスパ・スイーツ・スマートフォン センター・ダイバーシティ・チキン・デイスる・デコる・テンション・読モ 友チョコ・なう・ネオン・バーチャル・パワースポット・ブラック・～プリ プライベートブランド・ボーカロイド・マキシ・メガ・メンタル・ゆるキャラ リア充
【語頭につく・接頭語】アラ～・駅～・完～・激～・ゲリラ～・弾丸～・ちょい(足し) 美～(美脚)・ぶち(切れる)・メガ～
【後につく・接尾語】イクメン・イタイ・ウケる・～推し・～活・キテる・キレる・～女 デイスる・テカる・～的には・デコる・～撮り・～なう・モテる・ヤバイ ゆるキャラ・楽ちん
【複合語】アベノミクス・上から目線・ガールズトーク・キラキラネーム・クールジャパン クチコミ・コスパ・JK・女子会・女子力・スマートフォン・ダイバーシティ 中二病・ちょい足し・ツンデレ・殿堂入り・読モ・友チョコ・とりま パワースポット・ぶち切れる・プライベートブランド・ゆるキャラ・リア充
【大げさ表現】イチオシ・炎上・オススメ・神・完～・激～・劇的・ゲリラ～・弾丸・鉄板 殿堂入り・美～・メガ～・盛る

第4時は平成25年本校公開研究会において公開した授業である。上記の分類をもとに、グループ分けした意味を考えた。グループ分けをした理由(意味)について、授業中の生徒の発言や生徒のノートの記述を一部紹介する。

<p>*私は辞書を作っている方々の立場を経験し、「どのように」辞書に載せることばを選ぶのかということを考え、学ぶためだと思いました。グルーピングすることは判断が難しい作業なのでこれを体験することで、一体辞書をつくることはどのくらい大変なことなのか知るためだと思いました。そして鋭い判断力と慎重に選ぶ姿勢を培い、今後行う辞書の編集作業に役立てるためではないかと考えました。</p> <p>*私たちが今使っている「新語」はどのように変化したものなのか、あるいは使われ方を分析することで、なぜまだ辞書に載らないのかを考えるためではないか。</p> <p>*新しいことばを色々な視点からみるため。新しい言葉にはどのようなものが多いのかを知り、今の社会の傾向、若い人たちの間の流行を理解するため。辞書に載せるか載せないかは別として2～3年の間にたくさんの言葉が生まれてすたれていくことを理解するため。</p> <p>*辞書は新しい言葉や使われなくなってしまう言葉を入れるが「今私達が使う言葉」がどのように広まって、そして今度も使われ続けるのか、本当に求められる言葉なのか。私達が辞書を使うとしたらどんな観点で載せるかを定められるようにするため。</p>
---

その後、生徒全員が『お茶中国語辞典』の編集委員の一人となり、クラス毎に編集会議を行い、編集方針を立てるという授業展開を行った。以下、公開研究会の指導案である。

1) 本時の目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>①集めた項目を分類した意味を考える。</li> <li>②分類した項目をもとに編集方針を話し合って決める。</li> <li>③編集方針に基づき、掲載項目を考える。</li> </ul>										
2) 学習の展開										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>主な学習内容と活動</th> <th>指導上の工夫・配慮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題設定</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のふり返り(自分の辞書について語る)</li> <li>・クラスで出したグループ分けを確認する。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との対話から授業をスタートさせる。この後の学習班での話し合いで意見を出しやすい雰囲気を作る。</li> <li>・黒板やノートを見て確認するよう促す。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ分けした意味を考える。</li> <li>・辞書編集のための方針をクラスで決めるた</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による発表。</li> <li>・今日の進行役を確認し、学習班で話し合う。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のふり返り(自分の辞書について語る)</li> <li>・クラスで出したグループ分けを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との対話から授業をスタートさせる。この後の学習班での話し合いで意見を出しやすい雰囲気を作る。</li> <li>・黒板やノートを見て確認するよう促す。</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ分けした意味を考える。</li> <li>・辞書編集のための方針をクラスで決めるた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による発表。</li> <li>・今日の進行役を確認し、学習班で話し合う。</li> </ul>
	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮								
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のふり返り(自分の辞書について語る)</li> <li>・クラスで出したグループ分けを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との対話から授業をスタートさせる。この後の学習班での話し合いで意見を出しやすい雰囲気を作る。</li> <li>・黒板やノートを見て確認するよう促す。</li> </ul>								
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ分けした意味を考える。</li> <li>・辞書編集のための方針をクラスで決めるた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による発表。</li> <li>・今日の進行役を確認し、学習班で話し合う。</li> </ul>								

追究・表現	<p>め、学習班で意見を出し合う。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体で編集方針について話し合う。</li> <li>・実際に国語辞典ではどのような方針で掲載項目を決めているのか資料から読み取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習国語辞典に掲載すべきグループとそうでないグループに分けられるとよい。(〇〇グループは国語辞典でなくても△△辞典に載せれば良い、など)</li> <li>・【資料】はすでに配布してあり、読んである状態で授業を進める。</li> </ul>
省察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書を編集するために、クラスで決めた方針に基づき、掲載項目を考える。</li> <li>・次回は掲載項目の内容(語釈や例文)を考えることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・判断に迷う項目も挙げる。なぜ迷ったのかもノートに記しておくよう指示する。</li> </ul>

3) 本時の評価

①分類することによる意味を考え、発表している。

②資料を活用しながら編集方針を話し合っている。

③編集方針に基づき、意欲的に辞書編集に携わるべく掲載項目を考えている。

### 【第5時 編集方針を立て、掲載項目を決める】

以下、4クラス全てで『お茶中国語辞典』編集会議を行い、提示された編集方針である。

《松組》対象：中高生対象。小中学生の親でも分かるようにする。

方針：①語釈を簡潔に。 ②類義語・対義語を充実させる。

③略語を親見出しに。略さない形は語釈に加える。例：スマートフォンはスマホを親見出しとし、スマホの語釈にスマートフォンの略語であることを記す。

④略記号を用いてジャンルを示す。(ネット用語は「ネ」と表記するなど)

⑤意味の発展(手入れ)を充実させる。

⑥狭い世界のことばは載せず、日常のことばを載せる。

《蘭組》対象：中学生対象。中高生が使うことばは大人も分かるようにする。

方針：①ある程度社会で定着しているものを載せる。 ②略語は空見出しに。

③例文を増やす。専門用語をなるべく使わない語釈に。

④意味が想像できるものは載せない。(新しい意味を中心に載せる)

《菊組》対象：中高生対象。中学生から大人まで使えるものに。

方針：①中学生にとって分かりやすい語釈にする。(専門的な表現は避ける)

②略記号作り、それを凡例に載せる。(用例をたくさん載せるため)

③実際にそのことばを用いる場面を載せる。

《梅組》対象：中高生をメインに考える。

方針：①分かりやすく簡潔な語釈と例文にする。

②日常に沿うような語釈や例文にする。

クラス毎にその編集方針に沿って掲載項目を話し合い、決定することにした。

### 【第6・7時 担当する項目の語釈を考える】

編集方針に沿って今回の『お茶中国語辞典』改訂で新たに採録する項目・手入れを行う項目を一つずつ多数決で決定した。語釈と例文を考えるにあたり、隣の席の生徒同士でペアをつくり、担当項目を決めた。担当項目は希望をとり、重なった場合はじゃんけんで決定した。希望制をとったのは、思入れのあることばを担当するのが実際の辞書編集者の間でも行われているためである。

あるクラスで編集会議により決定した新たに採録する項目・手入れを行う項目は以下の通りである。国語辞典改訂に伴う紙幅とコストの関係、販売価格の話を授業者がした結果、「新規項目や手入

れが多すぎると今まで載っていた項目を外さなければいけない」「今まで載っていた項目のどれを外せばいいかその判断が難しい」と生徒たちが気づき、各クラスとも今回取り上げる項目は20項目以内でまとまった。

【載せる項目】	グループ分けに基づき話し合い
	意味の発展=評価・称号 (手入れ) 神 =大げさ表現 炎上・弾丸
	略語 女子に関連 ガールズトーク 外来語 (カタカナ語)
	SNS・ネット・アニメ スマホ =新語 =社会・経済
保留	動詞 (～る) 話し言葉 (語尾) ～じゃね・～的には
【候補項目】	
	アプリ・オススメ・イチオシ・イクメン・依存・イタい・炎上・ウケる・温感 格差・神・ガラケー・絡む・劇的・キレル・既読・コラ・クチコミ・ゲリラ スイーツ・スマホ・サクサク・ 弾丸・チキン・鉄板・テンション・ダイバーシティ・テカる・デコる バーチャル・バてる・ハマる・パワースポット・プライベートブランド メガ・モてる・盛る・マキシ・ヤバイ
	39 項目
	↓
【確定項目】	◎アプリ・◎～い(形容詞)◎依存 (用例に手入れ)・◎炎上・◎オススメ・△イチオシ ◎神・◎ガラケー・◎絡む・◎サクサク・◎スマートフォン ◎チキン・◎鉄板・◎テンション (手入れ) ◎プライベートブランド・◎メガ・◎～る(動詞)
	確定 16 項

### 3. 図書室との連携

本単元のまとめとして『お茶中国語辞典』に掲載すべく、生徒には担当項目の語釈を完成させ、語釈に添えるのに相応しい用例を考え、ワークシートにまとめさせた。ワークシートにまとめる際、提出されたワークシートの中から秀逸なものを授業者が選び、次のようにすると生徒に伝えた。

- ①最も秀逸な語釈を本校図書室便りに掲載する。図書室便りに(原稿として)担当項目の語釈・用例、自分が愛用している国語辞典の紹介文(その辞書の良い点と改善すべき点)を書く。
- ②①に次いで秀逸な語釈をPOPカードにして本校図書室に展示する。

図書室便り原稿とPOPカードを作成する際、国語辞典の体裁になら「項目(見出し語)・漢字表記・品詞名・語釈・用例」の順で書くよう生徒に指示した。提出されたPOPカードは、事前に図書室で購入してもらった国語辞典関連書籍とともに図書室に展示した。本単元終了後、図書室便りは全校生徒に配布し、POPカードと同様に図書室に展示した。

本単元を行うことで、生徒たちに国語辞典に興味を持ってもらい、図書室にある様々な国語辞典、辞書類に触れる機会になればと考えた。また、図書室便りに生徒の作品が載り、関連書籍が紹介されることでより多くの生徒たちに図書室に足を運んでほしいと考えた。

### 4. 生徒の感想

- \*辞書を編集するということはとても大変ですがやりがいのある作業だと思いました。私は「完璧な辞書などない。だから辞書の編集に答えはないんだ。」と思いました。でも、私はなるべく多くの方が納得して使える、鋭い判断で言葉を「取捨選択」した、皆の理想に近い辞書を作ってみたいと思いました。
- \*授業で国語辞典を引くことがとても多いのですが、ここまで自分の辞書と向き合ったのは初めてでした。今まで辞書の説明を読んでも何も感じなかったのですが、言葉一つひとつの語釈や用例が編集委員の人たちによってよく考えられたものだとは思わなかったのも、これからは辞書を引くときにこの説明を考えた人はどんなことを考えていたのかな、どんな工夫をしたのかなと考えながら引きたいと思います。
- \*辞書の表紙には既に亡くなっている人(編集に関わった人)の名前が載っていることに最初は驚きました。でも、授業で国語辞典のことをよく知り、編集する人たちの苦勞が分かったので亡くなっている人の名前が表紙に載るのは当然だな、と思いました。改訂だけでも大変なのに



## V まとめ

この単元を行ってみて、新語・流行語に敏感で柔軟な中学生も、それらがすぐに国語辞典に載ることに対して少なからず違和感を感じていることが分かった。夏休み・秋休みをかけて集めた用例のうち、最終的に『お茶中国語辞典』に掲載すべく生徒たちが選び、語釈作成にまで至った項目の多くは新語・流行語ではなく、日常的にかなり定着し、幅広い世代で用いられていることばであった。新しいことばだからすぐに国語辞典に採録しようとするのではなく、生徒たちにも「これは国語辞典に載せるべきだ」「載せるべきではない」「載せるには時期尚早」という感覚があるようで、スマートフォンのように当面私たちの生活から切り離せないものについては採録する一方、「アベノミクス」については安倍政権だからこそのことばで、政権が交代したら用いられなくなるだろうということで4クラス全てで採録候補に挙がったものの、最終的には採録しないという結論になった。

生徒には普段から紙の国語辞典を使用するよう声を掛け、実際にそのように授業を展開している(生徒は全員、授業では紙の国語辞典を使用している)。今日、電子辞書が一般的となりつつあるが、紙の国語辞典に触れる機会を今後も持ち続けたい。紙の辞書は一覧性が高いだけでなく、目的の項目を引きながら他のことばと偶然出会う機会も多い。また、電子辞書は簡単に目的のことばが見つかるが、紙の辞書は「引く手間」があるからこそ、そのことばとの出会いが印象に残るのである。

これからも生徒たちは多くのことばが溢れる中で生きていく。この単元を通して何気なく使うことば、目にしたり耳にしたりすることばに「ちょっと立ち止まって考える」姿勢や意識を今後も持ってほしいと考えている。

---

註1：NHK「情報まるごとトクする日本語」ホームページより引用。(http://www.nhk.or.jp/kininaru-blog/66062.html  
2013年10月21日確認)

註2：北原保雄編『明鏡国語辞典』第2版(大修館書店2010年発行)。

註3：見坊豪紀ほか編『三省堂国語辞典』第7版(三省堂2014年)。第6版は2008年1月に発行された。

註4：北原保雄監修/「もっと明鏡」委員会編『みんなで国語辞典!』(2006年)・北原保雄監修/「もっと明鏡」委員会編『みんなで国語辞典②あふれる新語』(2009年)・北原保雄編著/「もっと明鏡」委員会編集『みんなで国語辞典③辞書に載らない日本語』(大修館書店2012年)。

註5：北原保雄/「もっと明鏡委員会」共編『KY式日本語 ローマ字略語がなぜ流行するのか』(大修館書店2008年)

註6：北原保雄編著/「もっと明鏡」委員会編集『みんなで国語辞典③辞書に載らない日本語』(大修館書店2012年)より引用。

註7：この見坊氏による序文は第3版以降、最新版第7版の『三國』に至る現在まで改訂の度に再掲されている。

註8：『三國』第6版ではがれきの語釈が「①かわらと小石。②つまらないもの。」であったが、第7版では「①かわらと小石。こわれた建物の残骸。②つまらないもの。」と変化している。「朝日新聞夕刊2014.1.9」でこのことが取り上げられている。

註9：飯間宏明『辞書を編む』(光文社新書2013年)。

参考文献 国立国語研究所編『新ことばシリーズ22 辞書を知る』(2009年刊)  
『日本国語大辞典 第2版』(小学館2000年刊)  
サンキュータツオ『学校では教えてくれない! 国語辞典の遊び方』(角川学芸出版2013年刊)

本校司書の野村朝子氏には様々な面で快くご協力いただいた。この場を借りてお礼を申し上げたい。